

令和5年度

渡島教育研究所員共同研修講座

日時：令和6年1月11日（木）

午後1時30分～午後4時20分

会場：大中山コモン 大会議室

渡島教育研究所

提言

「指導と評価の一体化」

～ルーブリックを活用した授業改善～

渡島教育研究所

提言「指導と評価の一体化」～ルーブリックを活用した授業改善～

1 指導と評価の一体化

2 ルーブリックの作成に関わって

☆ 菅原所員の実践 ~小学校六年生体育科「跳び箱運動」より~

☆ 鈴木教諭の実践 中学校での実践 ルーブリックのメリット, デメリット
~やってみて実際に感じたあれこれ~

指導と評価の一体化とは？

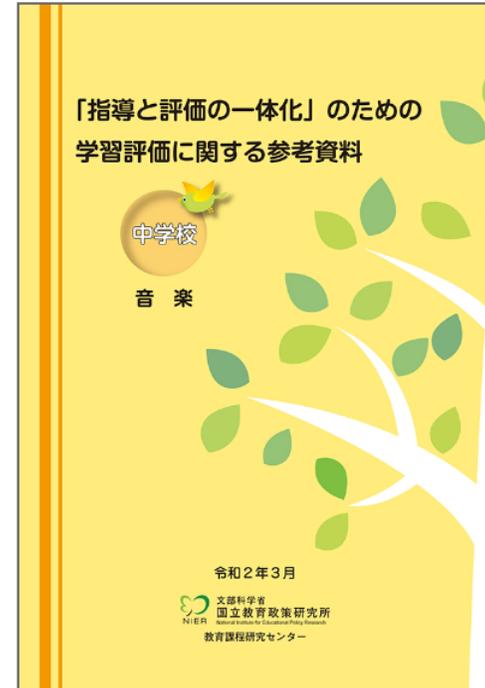
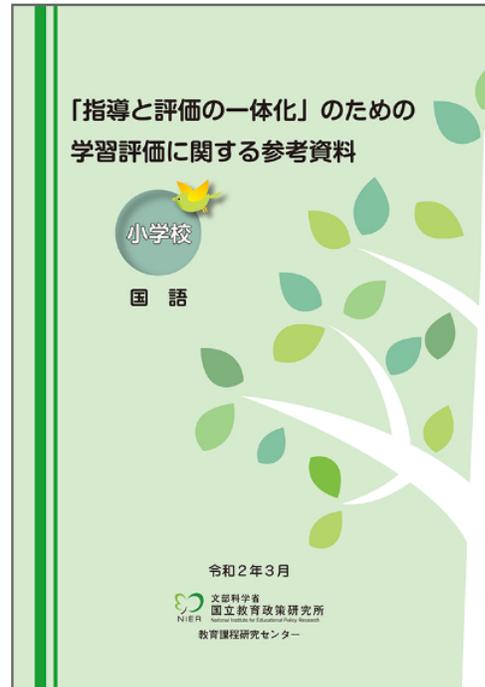
- 学習評価は、学校における教育活動に関し、子供たちの学習状況を評価するものである。「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、この学習評価の在り方が極めて重要であり、**教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性を持った形で改善を進めることが求められる。**
- 子供たちの学習状況を評価するために、教員は、個々の授業のねらいをどこまでどのように達成したかだけでなく、**子供たち一人一人が、前の学びからどのように成長しているか、より深い学びに向かっているかどうかを捉えていくことが必要**である。
- また、学習評価については、子供の学びの評価に留まらず、下記4. (1)に述べる「カリキュラム・マネジメント」の中で、**学習・指導方法や教育課程の評価と結び付け、子供たちの学びに関わる学習評価の改善を、教育課程や学習・指導方法の改善に発展・展開させ、授業改善及び組織運営の改善に向けた学校教育全体のサイクルに位置付けていくことが必要**である

提言「指導と評価の一体化」～ルーブリックを活用した授業改善～

Ⅰ 指導と評価の一体化

指導と評価の一体化とは？

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編・中学校編）



出典：国立教育政策研究所ホームページ (<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>)

指導と評価の一体化とは？

教師が「子供たちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ること。

教育課程を編成・実施し、学習評価を行い、学習評価を基に教育課程の改善・充実を図るというPDCAサイクルを確立することが重要である。

指導と評価の一体化とは？

児童生徒が明確な目標をもって、主体的にねばり強く取り組めるような指導を行い、的確な評価を行うこと

児童生徒の学習成果にABCをつけて終わりにしないこと

提言「指導と評価の一体化」～ルーブリックを活用した授業改善～

I 指導と評価の一体化

歌のテストだ！歌といえば
大きな声で元気に歌おうって、
1年生の時先生が言ってたぞ！！
頑張ろう、僕の声が一番大きい、
これは100点だ！

う～ん、強弱をつけな
がら情景を表現する
歌なんだよなあ……
怒鳴ってるなあ。声が
大きいだけではなあ。

僕、大きな声で
歌ったよ。
頑張った
のに……。

そうよね。
あなたは大きな
声で上手に歌う
子よね。
先生ちゃんと
聴いたのかしら。



提言「指導と評価の一体化」～ルーブリックを活用した授業改善～

I 指導と評価の一体化

A, B, B……ここはAかな。
よーし, 前期の成績,
あとちょっと……

やったー
終わった!
印刷, 確認,
子供にも無事
渡せたし……

亮



学習評価の改善の基本的な方向性

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

指導と評価を一体化させる ための学習評価改善

- ① 学習目標の達成度を計るための
明確な評価基準を設定する。
- ② ①について、児童生徒と共通理解を
図る。

ルーブリック

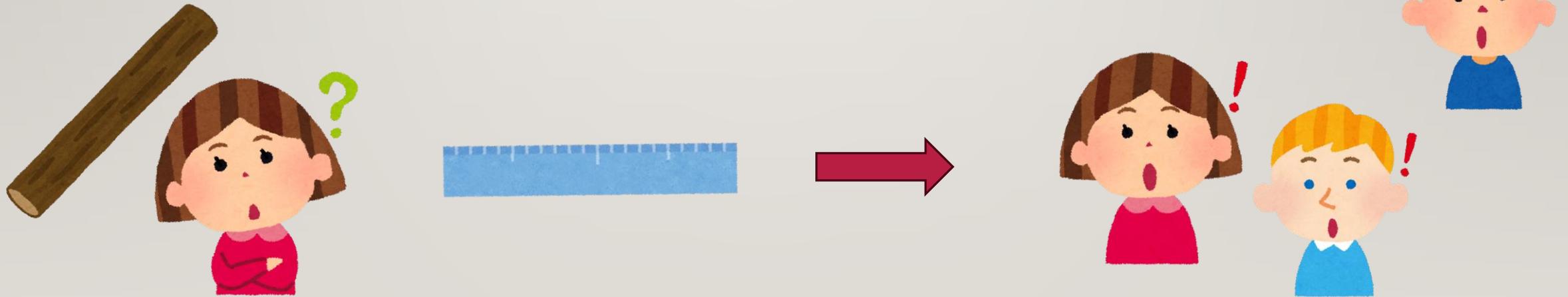
【ルーブリックとは】

成功の度合いを示す数値的な尺度あるいは評語と、それぞれの数値や評語にみられる認識や行為の質的特徴を示した記述語からなる評価基準表のこと。

ルーブリック

ルーブリックとは評価基準のことである。絶対評価を行うための「ものさし」と考えると分かりやすいだろう。

見える「評価」で授業が変わる！ ～ルーブリックで授業作り～ JUST School 2013



ルーブリック

ルーブリックの例

※小学校第3学年「表と棒グラフ」
(国研資料・事例4)の事例をもとに事務局が作成

2

評価規準 判断基準	記述語（主体的に学習に取り組む態度）
A 「十分満足できる」状況	【加点するポイント】 <ul style="list-style-type: none">・自分の力で問題を見出して、アンケートを作るなど学習の計画を立てている。・1回の比較・調査で終わらず、さらに調査や追究を進めている。・友達の考えを取り入れて、修正している。・友達により影響を与える取組をしている。 等
B 「おおむね満足できる」状況	【評価規準】 問題解決に必要なデータを集め、観点を定めて分類整理し、それをグラフに表して見いだしたことを表現しようとしている。
C 「努力を要する」状況	【手立て】 ※B基準に到達していない子（表現しようとしていない子） <ul style="list-style-type: none">・幾つかの問題から選択できるように選択肢を用意しておく。・過去の作品や見本を示し、完成（ゴール）をイメージさせる。・児童同士の交流を設けて見通しをもたせる。 等

加点するポイントを複数設定し単元を通して見取る。

B基準に到達していない児童生徒に対する手立てを明示する。

ルーブリック

何ができたらBで
どこを超えたらAなのか



ルーブリック

児童生徒にとって…

- 評価基準が示されることで、主体的に自己評価を行うようになる。
- 何をどのように工夫したり努力したりすれば、良い評価が得られるかが最初から把握できているので、意欲が出る。
- 「客観的に評価されている」という安心感につながる。
- 評価に納得することができる（保護者も）。

ルーブリック

児童生徒にとって…

何ができたらBで

どこを超えたらAなのか 分かる

ルーブリック

児童生徒にとって…

【留意点】

児童生徒と共有したり, 提示したりする評価基準は, 子供の言葉に置き換える必要がある。

研究Point

～児童生徒と一緒につくるルーブリック～

提言「指導と評価の一体化」～ルーブリックを活用した授業改善～

2 ルーブリックの作成に関わって

1. 授業での実践①

教師「このテストでは、どのくらいできるようになればAだと思いますか？」

「50点の9割だから…46点!!」

「46点は高すぎるよ。40点で良いと思う。」

「でも、加減乗除は計算の基本だからって先生言ってたし!」

教師「ちなみに、隣のB組で話し合った時の評価Aは46点でした。」

「え!?じゃあ、48点にしよう」

「え～高すぎる」

「俺は50点目指すよ」

目標「テスト練習でAをとろう」

	A	B	C
50点	46点	36点	35点
(23問)	(23問)	(18問)	(17問)

テスト練習プリントでAをとる
↓
教 p49 問7
↓
教えるワーク補充

2. 「主体的に学習に取り組む態度」を見取るために

提出前

- (生徒) 事前に評価のポイントを知ることによって今後の取組の見通しにつながる
- (教師) 評価の観点がはっきりしているため、アドバイスしやすい
→中1からレベルの高いパフォーマンスが見られた。
※中3までになると、生徒達のこれまでの経験から、頭の中に見えないルーブリックがあるのかと思います。

提出後

- (教師) 評価基準が明確なので、チェックしやすい
- (生徒) なぜこの評価なのか、足りない部分を理解しやすい

評価	S	A	B	C
	「評価A」に加え、粘り強く学習に取り組む工夫が見られる。	「正しい答え(途中式)」「間違えた場合は正しい考え方・途中式」などを記入している。	やっていない問題がある、途中式が必要な問題で答えだけ書き写してある、間違えた問題の正しい解答・解説を書いていないなど、「評価A」に一部不足している。	やっていない問題がたくさんある。

👉 渡島ネットワーク「渡島教育研究所研修講座アーカイブス」をご覧ください

研究Point

～児童生徒と一緒につくるルーブリック～

合意形成

学習目標を
「押し付けられた」感の軽減

自然と主体的な
学習が始まる

研究Point

～児童生徒と一緒につくるルーブリック～

ルーブリック

教師にとって…

- 明確な評価基準の作成により、単元の目標に具体性ができる。
- 支援が必要な児童生徒を見つけやすくなる。
- 総括的評価の場面が明らかになる。
- ペーパーテストのように点数で評価ができないパフォーマンス評価で、迷わなくて済む。

ルーブリック

教師にとって…

何ができたらBで

どこを超えたらAなのか に迷わない

提言「指導と評価の一体化」～ルーブリックを活用した授業改善～

2 ルーブリックの作成に関わって

ルーブリック

教師にとって…

【留意点】

より妥当性・信頼性の高い評価を行うために、常に改善や修正が必要であり、同教科・同学年や市町村内で大きな差が無いことが望ましい。

研究Point

～続けられるルーブリック～

提言「指導と評価の一体化」～ルーブリックを活用した授業改善～

2 ルーブリックの作成に関わって

(10) 授業準備

業務の役割分担・適正化に関する現状・課題

- 取組状況は少しずつ向上している。また、意識調査では、負担感が強いものの、やりがいや重要性は高いという結果も出ている。

- 授業準備は、教師でなければできないものであり、授業の質に直結する重要な業務である。これまで以上に教師がその内容に集中できるよう、文科省通知（※）等を踏まえ、例えばプリントの印刷や掲示準備等については教員業務支援員との連携を強化すること等を通じて、教師が準備そのものに集中できる環境を整備すべきではないか。

※学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について(通知)
(令和3年8月)

- さらに、学校DXの推進により、効果的・効率的な授業準備が行えるようになった面があることを踏まえ、引き続きICT活用は推進していくとともに、限られた時間の中でも質の高い授業準備ができるよう、意識改革を図っていくべきではないか。

- 標準授業時数を大きく上回って教育課程を編成・実施している学校（※※）については、対応を早急に検討し、令和6年度から改める必要があるのではないかと。

※※標準授業時数1015単位時間に対して、約4割の学校（小5、中2）が1086単位時間以上（平成31年の学校における働き方改革に関する答申において標準授業時数を大きく上回った授業時数と指摘）を計画。（出典：令和4年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査調査結果）

(11) 学習評価や成績処理

業務の役割分担・適正化に関する現状・課題

- 取組状況は、政令市は伸びが見られるものの、都道府県及び市区町村は低い水準にとどまっている。

- 「削減すべきだが削減は難しい」の主たる理由が慣行を見直しづらい等の学校文化であることを踏まえ、引き続き「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」として、これまで以上に、国、教育委員会が明確なメッセージを出しながら、学校長のリーダーシップ等により、教員業務支援員をはじめとした支援スタッフやICTの活用を大胆に進めていくべきではないか。

中央教育審議会総会

教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策 R5.9

- 小学校高学年の教科担任制強化
→信頼性・妥当性がより求められる。
- 標準授業時数を大幅に上回っている学校は見直すことを前提に点検
→より計画的な指導と評価を行う必要がある。
- 学習評価や成績処理の補助的業務への支援スタッフ参加
→人によってぶれない明確な評価基準が必要になる。

研究Point

～続けられるルーブリック～

まずは
ルーブリック作成の
取捨選択から

渡島ネットワークで
情報共有

ここぞ!で活用する
ルーブリック

- ・パフォーマンス
- ・作文
- ・数値を変え使い回せる簡易ルーブリック

研究Point

～続けられるルーブリック～